

麗気烈風

令和4年3月2日(水)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

～【我が師の恩】～

3年生はいよいよ明日、修了式、同窓会入会式、そして明後日は卒業式を迎えます。

3年生にとって本当にコロナに始まり、コロナに終わった3年間だったのではと思います。せめて卒業式くらいはこれまでの伝統を守って、と思っていましたが、それさえも叶わぬ状況です。

いつもならこの季節は、3年生の教室から「仰げば尊し」の歌声が聞こえてきます。その歌声と少し

暖かみを帯びてきた風によって「別れの春」が急に現実味を帯びる、そんな季節です。

昔、担任していた時、ある保護者から「先生たちが



子ども達のために働くのは当たり前、『我が師の恩』などと子どもに歌わせるのはけしからん。」との「アドバイス」をいただきました。その時は私も、「なるほど、そんな考えもあるのか。」と思いました。

しかし教師の仕事は「仕事だから」で片づけられるほど簡単なものではないということが、年齢を重ねる度に分かってきました。

鹿南中の職員の勤務時間は午前8時20分から午後4時50分までです。もちろんこの時間通りに出退勤しては授業や部活なんて全くできません。

鹿南中の先生方は、早い先生で午前7時前に出勤し、夜は午後8時過ぎまで仕事をしています。

全国的な働き方改革の潮流の中で、在校時間は極力短くしなければなりません。また個人情報保護のために、成績や通知表に関する資料は学校からの持ち出しは厳禁です。

ならば子ども達が登校する前や部活が終わって子ども達が家に帰り着くまでの「隙間時間」に集中して業務をする。あるいは土日に「こっそり」学校に来て採点や通知表作成をするしか、教師という業務を全うする方法はないのです。

それはおそらく子ども達の想像を超えた業務だと思えます。(もちろん他の職業もそうですね。楽な仕事なんて世の中に一つありませんから。)

今年の卒業式では「仰げば尊し」は歌われません。ですからせめて、最後の日に担任の先生に心から「ありがとうございました！」の言葉をお願いしたいと思います。クラス全員心をつにして。

今日まで全身全霊を尽くして愛情を注いできた

生徒達からの一言で、これまでの苦労なんか一瞬のうちに吹き飛びます。他は何もいらぬのです。それが教師という職業なのです。

～【泣くな ぼやくな】～

3年生の皆さんにとってはこの「麗気烈風」が最後となりますので、少し早いですが、私からお別れのメッセージを送ります。私が担任をしていた頃、生徒達が持ってきた卒業アルバムの余白に書いていた言葉です。

～ 泣くな ぼやくな 人のせいにするな

すべては 自分の 責任だ ～

中学校を卒業し、高校生、大学生、社会人となるにつれて、たくさんの人と出会い、たくさんの出来事が待っています。楽しいこともあります。つらいこともまた必ずあります。そんな時にどのように立ち向かっていくか、その積み重ねがあなた方の「生き方」「生き様」になります。

つらいことがあっても決して人のせいにははいけません。そんなことではいつまでたっても自己中心的な子どものままで、社会人としてそれ以上成長することはできません。つらいことがあっても結局は自分の責任なのだ、だったら原因は何で、どのように対応していけばよいのか、涙を見せず、愚痴らずに、精一杯頑張っていこう、そんな思いを持ってこれからの人生を生き抜いていってほしいと思います。

これから人生 100 年時代を迎えます。君達はあ

と 85 年自身自身と付き合い合いかねばなりません。ならば、これからの 85 年間、幸福な人生を送るために、ぜひ、自分のことが大好きな自分になってください。自己肯定感、自己有用感を持ってください。



うれしいこと、楽しいことばかりを追い求め、つらいこと、きついことから目をそらしていても自己肯定感、自己有用感を持つことはできません。これから先、君達が出会うであろう数々の試練は、君達を幸せな人生へと導く道標なのだと思います。臆することなく立ち向かっていってほしいと思います。そして「生まれてきてよかった！お父さん、お母さん、ありがとう！」と思える人生を送ってほしいと思います。健闘を祈ります。御卒業、おめでとうございます。